

研究職 × 子どもの未来

筑波大学大学院
人間総合科学研究科

山口 功祐さん

スポーツ健康学部2014年卒業。
卒業後、筑波大学大学院博士前期課程
人間総合科学研究科 体育学専攻
体育測定評価学研究室に進学。

■未来を担う子どもの手助けをしたい

現在、筑波大学大学院で、幼児期における子どもの発育発達過程を明らかにすると共に、体力低下についての対策を考えています。具体的には、子どもの走・跳・投動作を評価する評価尺度を構築し、その評価を元に発達過程を明らかにする研究となります。

私が大学院への進学を志したのは、大学の授業の二環で幼稚園に体力測定を行った際、今の子供たちの体力の低下を知り、何とかしたいと感じたのが原点。今の子どもたちは昔に比べ、3つの間（仲間・時間・空間）が減少し、外遊びをする機会が減っています。それは体力の低下に加え、肥満やケガの誘発にもつながっています。今はこの現状を改善したいという思いで研究を重ね、結果を元に、効率よく発達できる「運動遊びのプログラムの提案」に取り組んでいくつもりです。

今後は研究職に就き、これからの未来を担う子供たちが健康で幸せに暮らしているよう、何か手助けができればと考えています。



理学療法士 × コミュニケーション

千葉大学医学部付属病院
理学療法士

村中 晃さん

人間健康学部リハビリテーション学科2013年卒業。
卒業後、千葉大学医学部付属病院に
理学療法士として就職。

■「気づき」合えることがやりがい

私は現在、病院で理学療法士として働いています。仕事は、整形外科疾患・脳卒中患者様のリハビリや、開胸・開腹術を受けられる患者様の手術前後のリハビリです。理学療法士を志したのは、人と接することが好きだから。また、病气やケガをされた方々の社会復帰のお手伝いができることに興味を持ったからです。

まだ2年目ですが、この仕事の1番の喜びは、互いに「気づき」合えること。例えば、片麻痺の方に「手すりがあれば安全に立ちあがれます、お風呂に入れます」と提案し、「この方法なら安全に家に帰ることができる」と気づいてもらう。逆に、高齢の方から、人生の先輩としての価値観や生き方を教えていただくことも多くあるのです。

現在は千葉県で働いていますが、ゆくゆくは地元に戻り、習得した知識や技術を今までお世話になった両親や祖父・祖母にも還元していきたいと思っています。



コールセンター × 野球

株式会社エナジック

宮林 大輝さん

スポーツ健康学部2014年卒業。
卒業後、株式会社エナジックに就職。
名護支店に勤務。

■仕事と野球の両立。そして都市対抗出場へ

私は小・中・高・大学と野球に取り組んできたものの、野球に対してやり残したことがあるとの思いが強かったため、野球をしながら仕事ができる株式会社エナジックに入社しました。現在、浄水器の製造・販売を主事業とする株式会社エナジックの沖縄県・名護支店に勤務しています。仕事としては半日コールセンターで業務を行い、半日硬式野球部の練習に励んでいます。コールセンターでは、ある時は話し手に、ある時は聞き手にと、お客様の立場に立った接客を心がけています。野球では、体調管理を心掛け、結果にこだわり、競争意識の中で生活することにやりがいを感じています。今までは違う意識で取り組んでいました。このような今があるのも、大学の時に学生のことを第1に考えてくださった指導者に出会い、指導者・チームメイトとの強い信頼関係で目標へ向かって4年間生活ができたことが大きいと感じています。1年目の今年は都市対抗の予選で敗退してしまいましたが、次は必ず都市対抗に出場し、会社や指導者に恩返しをしたいと思っています。

